

**PRIMERGY TX150 S2 アレイタイプ/TX150FT S2、
SCSIアレイコントローラカードPG-140D/PGB140D
購入のお客様へのお願い**

～PG140D RAID Utilityの使用方法～

SCSI アレイコントローラカード PG-140D を御使用になる場合、必ず、本書記載の手順で「PG-140D RAID Utility」を適用し、定期的に一貫性チェック (Consistency Check) を実行してください。本機能はデータの信頼性を確保するために重要な機能ですので、必ず適用をお願い致します。

注) 「SCSI アレイコントローラカードドキュメント&ツール CD(L)」内の「SCSI アレイコントローラカード PG-140D 取扱説明書」に Patrol Read 機能に関する記載がありますが、本機能は未サポートとなります。RAID 管理ツール (GAM/WebBIOS) で Patrol Read の設定を「有効」に変更しないでください。なお、出荷時設定は「無効」になっています。

注) 「SCSI アレイコントローラカードドキュメント&ツール CD(L)」内の「SCSI アレイコントローラカード PG-140D ご使用前に」にも本製品を御使用になる際の重要事項が記載されています。御使用になる前に必ず参照してください。

2004 年 12 月
富士通株式会社

I. Windows 2000, Windows 2003 を御使用の場合

「PG-140D RAID Utility V1.0」(以下本ツール)は、Windows 標準のタスクスケジューラ機能を用いて一貫性チェック (Consistency Check) を定期的に行い、ハードディスク上の不良セクタを修復するものです。これにより、万が一ハードディスクが故障した場合に、データが失われることを未然に防止します。本製品を御使用の前に、以下の手順で本ツールのインストールをお願い致します。

1. インストールの前に

■PRIMERGY TX150 S2 の場合、お使いの ServerStart CD 「PRIMERGY TX150 S2 ServerStart V5.405」の図番が CA40701-E498 の場合のみ、本ツールをインストールしてください。それ以外の場合は ServerStart での開封、およびインストール時に最新版がインストールされていますので、インストールしないでください。

■PRIMERGY TX150FT S2 の場合、サーバ本体添付のリカバリ CD 「PRIMERGY リカバリ CD-ROM PRIMERGY TX150FT S2」の図番が CA40701-G388 の場合のみ、本ツールをインストールしてください。それ以外の場合は最新版がプレインストールされていますので、インストールしないでください。

- 本ツールは PRIMERGY TX150 S2/TX150FT S2 でのみ使用できます。他種サーバにはインストールしないでください。
- 本ツールは Windows のタスクスケジューラ機能を使用しています。Task Scheduler サービスを「無効」にしている場合は「有効」にしてください。(デフォルトは「有効」です)
- 事前に RAID 管理ツール(Global Array Manager、以下 GAM)環境の整備が行われていなければなりません。「SCSI アレイコントローラカード PG-140D 取扱説明書」を参照の上、以下の作業を行ってください。
 - ・サーバへの GAM Server/Client のインストール
(プレインストール時、あるいは ServerStart でインストールした場合、通常はインストールされています)
 - ・ Administrator 権限を持つアカウント (gamroot) の作成
- PRIMERGY TX150FT S2 の場合、FT1 と FT2 双方の CoServer OS に本ツールをインストールしてください。ただし、FTvirtual Server にはインストールしないでください。

2. インストール手順

1) PG-140D RAID Utility のインストール

本ツールをフロッピーディスクからインストールします。

- a) Administrator、あるいは同等の権限を持つアカウントで Windows (Window 2000 または Windows 2003) にログオンします。
- b) PG-140D RAID Utility V1.00 と記載されたフロッピーディスクを挿入します。
- c) [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
- d) テキストボックスに A:¥Win¥Install.bat と入力し、[OK]を押します。
- e) コマンドプロンプトが開き、インストールが行われます。
- f) インストールが完了すると、[コマンドプロンプト]に以下のメッセージが表示されます。任意のキーを押すと、[コマンドプロンプト]が閉じます。

```
*****
PG-140D RAID Utility V1.0 のインストールが完了しました
*****
```

続行するには何かキーを押してください . . .

- 注) より新しい版数の「PG-140D RAID Utility」ものがインストールされている場合、以下のメッセージが表示されます。本ツールをインストールする必要はありません。

```
*****
新しい版数の PG-140D RAID Utility がインストールされています。
本ツールのインストールは不要です。
*****
```


3) 動作確認

[Start_CC] タスクの設定が正しく行われていることを確認します。

a) [Start_CC] タスクを実行します。

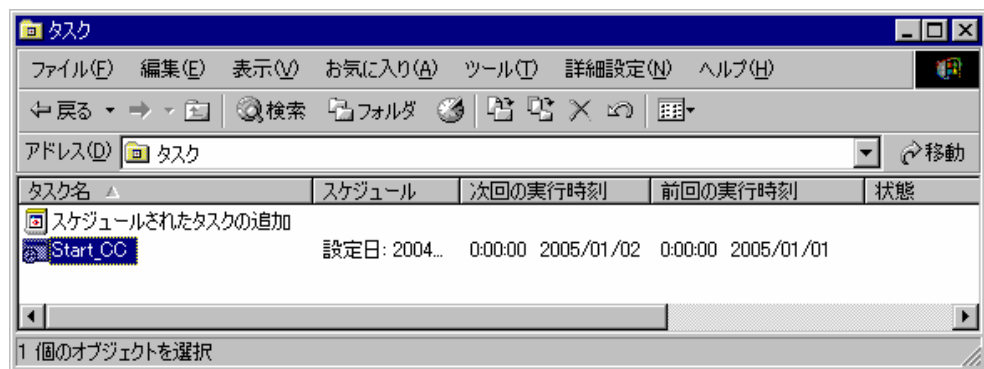
Windows 2000 の場合：

- ・ [スタート] メニューから [設定]、[コントロール パネル] の順に選択します。
- ・ [タスク] をダブルクリックします。
- ・ [Start_CC] を右クリックします。
- ・ ポップアップメニューが開きますので、[タスクの実行] を選択します。

Windows 2003 の場合：

- ・ [スタート] メニューから [コントロール パネル] を選択します。
- ・ [タスク] をダブルクリックします。
- ・ [Start_CC] を右クリックします。
- ・ ポップアップメニューが開きますので、[タスクの実行] を選択します。

b) 以下の様に、[前回の実行時刻] フィールドに [Start_CC] タスクを実行した時刻が表示されることを確認します。



c) 一貫性チェックが起動されたことを確認後、一貫性チェックを停止させます。

- ・ GAM を開きます。
- ・ GAM に **gamroot** で Sign On します。
- ・ プルダウンメニューから [View]、[Consistency Check Status] と選択します。
選択できれば、一貫性チェックが起動されています。
- ・ 全てのロジカルドライブの [Cancel] のチェックボックスをチェックします。
- ・ [Cancel] をクリックします。
- ・ 本当にキャンセルするかを聞いてきますので、[はい] をクリックします。

3. スケジュール設定(変更)手順

本ツールのインストール直後は、毎週日曜日の午前0時から一貫性チェックが実行される様に設定されています。以下の方法で適切な時間に一貫性チェックが実行される様に設定変更を行なってください。

なお、一貫性チェックは、1週間に1回以上の頻度で実行することをお勧めします。

注) PRIMERGY TX150FT S2 の場合、両方の CoServer に同じスケジュール設定を行なってください。

1) スケジュール設定(変更)

- a) [Start_CC]タスクのプロパティ画面を開きます。

Windows 2000 の場合：

- ・ [スタート]メニューから [設定]、[コントロール パネル]の順に選択します。
- ・ [タスク] をダブルクリックします。
- ・ [Start_CC] をダブルクリックします。

Windows 2003 の場合：

- ・ [スタート]メニューから[コントロール パネル] を選択します。
- ・ [タスク] をダブルクリックします。
- ・ [Start_CC] をダブルクリックします。

- b) [Start_CC]のプロパティ画面が表示されますので、[スケジュール]タブをクリックします。

- c) 以下のようなスケジュール設定画面が開きますので、一貫性チェックの開始日、開始時間等を設定し、[OK]をクリックして閉じます。



2) 動作確認

設定された時刻に一貫性チェックが実行されていることを確認します。なお、本確認作業は、一度でもスケジュールされた時刻が過ぎた後で実施してください。

- a) タスク画面を開きます。

Windows 2000 の場合：

- ・ [スタート] メニューから [設定]、[コントロール パネル] の順に選択します。
- ・ [タスク] をダブルクリックします。

Windows 2003 の場合：

- ・ [スタート] メニューから [コントロール パネル] を選択します。
- ・ [タスク] をダブルクリックします。

- b) 以下の様に、[Start_CC] タスクの前の実行時刻フィールドに、[Start_CC] タスクを実行した時刻が表示されることを確認します。



4. アンインストール手順

- a) **Administrator**、あるいは同等の権限を持つアカウントで Windows にログオンします。
b) [Start_CC] タスクを削除します。

Windows 2000 の場合：

- ・ [スタート] メニューから [設定]、[コントロール パネル] の順に選択します。
- ・ [タスク] をダブルクリックします。
- ・ [Start_CC] を右クリックします。
- ・ ポップアップメニューが開きますので、[削除] を選択します。

Windows 2003 の場合：

- ・ [スタート] メニューから [コントロール パネル] を選択します。
- ・ [タスク] をダブルクリックします。
- ・ [Start_CC] を右クリックします。
- ・ ポップアップメニューが開きますので、[削除] を選択します。

5. インストール時のメッセージ

- インストール時に異常が発生した場合、以下のメッセージが表示されます。フロッピーディスクの媒体不良が考えられますので、弊社ホームページの PRIMERGY ダウンロードページ <http://www.fmworld.net/biz/primergy/support.html> から本ツールをダウンロードしていただき、別フロッピーディスクに作成の上、再度、インストール作業を行ってください。

```
*****
PG-140D RAID Utility V1.0 のインストールに失敗しました
エラーコード = XXX
*****
```

- 本ツールのインストール先がWindowsの既定値と異なる場合、インストール完了後時に以下のような注意メッセージが表示されます。

```
*****
注意：インストール先が既定値と異なっています
      タスク設定変更時に、以下も変更してください
      実行するファイル名：“C:¥APL¥Fujitsu¥MegaCC¥Start_CC”
      開始：                “C:¥APL¥Fujitsu¥MegaCC”
*****
```

以下の手順で[Start_CC]タスクの設定を変更してください。

- [Start_CC]タスクのプロパティ画面を開きます。

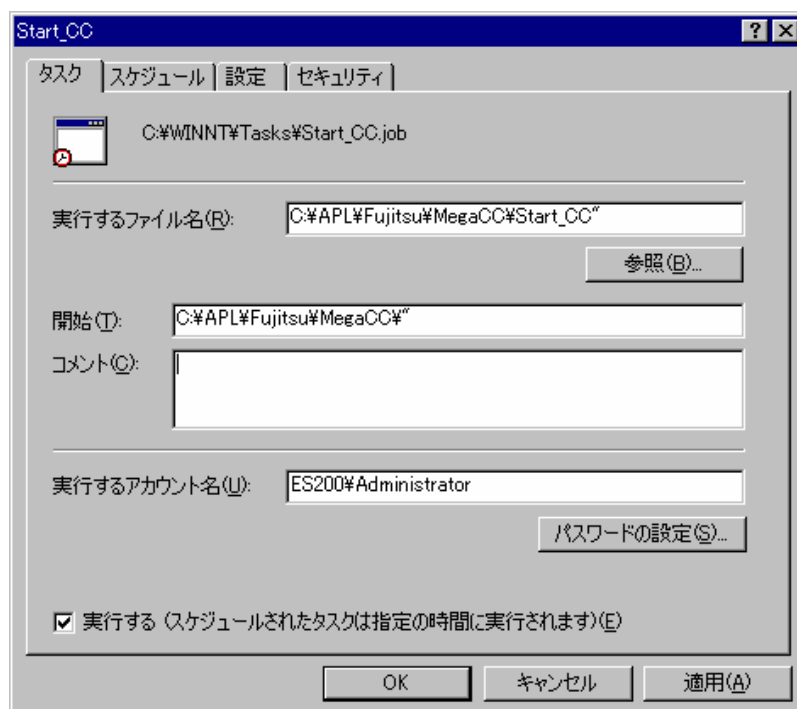
Windows 2000 の場合：

- ・ [スタート]メニューから [設定]、[コントロール パネル]の順に選択します。
- ・ [タスク] をダブルクリックします。
- ・ [Start_CC] をダブルクリックします。

Windows 2003 の場合：

- ・ [スタート]メニューから[コントロール パネル] を選択します。
- ・ [タスク] をダブルクリックします。
- ・ [Start_CC] をダブルクリックします。

- [Start_CC]のプロパティ画面が表示されますので、[実行するファイル名]、[開始]のフィールドを、インストール時に表示された内容に変更します。(不明な場合は、インストールを再度実施し、表示内容を確認してください)



- c) [OK]ボタンをクリックします。
- d) アカウント情報の設定画面が表示されますので、gamroot のパスワードを入力します。

II. Red Hat Enterprise Linux (v. 3) を御使用の場合

「PG-140D RAID Utility」(以下本ツール)は、Linux の cron 機能を用いて一貫性チェック (Consistency Check) を定期的に行い、ハードディスク上の不良セクタを修復するものです。これにより、万が一ハードディスクが故障した場合に、データが失われることを未然に防止します。本製品を御使用の前に、以下の手順で本ツールのインストールをお願い致します。

1. インストールの前に

- サーバ本体添付のアップデート CD「Red Hat Enterprise Linux ES (v. 3) アップデート CD」に「PG-140D RAID Utility」が含まれていない場合(図番が **CA40700-Q500**、あるいは **CA91200-P834** の場合)のみ本ツールをインストールしてください。「PG-140D RAID Utility」が含まれている場合は、プレインストールされていますのでインストールしないでください。
- 本ツールは **PRIMERGY TX150 S2** でのみ使用できます。他種サーバにはインストールしないでください。
- 本ツールはLinux の cron 機能を使用しています。crond デーモンが動作していない場合は、動作する様に変更してください。(デフォルトでは動作しています)
- 本ツールの正常動作を確認するためには、以下の RAID 管理ツール(Global Array Manager、以下 GAM) 環境の整備が行なわれていなければなりません。「Red Hat Enterprise Linux ES (v3.0) リリースノート」を参照の上、作業を行なってください。
 - ・ サーバへの GAM Server のインストール
 - ・ 管理者権限を持つアカウント (**gamroot**) の作成
 - ・ ユーザ権限を持つアカウントの作成
 - ・ 設定ファイル(/etc/rc.d/init.d/gam) の修正
 - ・ 監視 PC への GAM Client のインストール

2. インストール手順

1) 新版のインストール確認

より新しい版数のツールがインストールされていないことを確認します。

- a) 管理者権限でLinuxにログインします。
- b) 以下のコマンドを入力します。

```
# ps -aux | grep megaccsd | grep -v grep
```

以下の様に何等かの結果が表示される (**megaccsd** が起動されている) 場合、より新しい版数のツールがインストールされていますので、本ツールのインストールは不要です。

```
root 2041 0.0 0.0 2012 512 pts/1 S 16:23 0:00 megaccsd
```

2) PG-140D RAID Utility のインストール

本ツールを「PG-140D RAID Utility V1.0」フロッピーディスクからインストールします。

- a) 管理者権限でLinuxにログインします。
- b) **PG-140D RAID Utility V1.00** と記載されたフロッピーディスクを挿入します。
- c) 以下のコマンドを入力し、「PG-140D RAID Utility V1.0」をインストールします。

```
# mount /mnt/floppy
# cp /mnt/floppy/Linux/* /usr/bin
# umount /mnt/floppy
```

3) 動作確認

本ツールが正しくインストールされていることを確認します。

- a) 管理者権限でLinuxにログインします。
- b) 以下のコマンドを入力し、一貫性チェックを起動します。
/usr/bin/Start_CC
- c) 一貫性チェックが起動されたことを確認後、一貫性チェックを停止させます。
 - ・ 監視PC上でGAMを開きます。
 - ・ GAMにgamrootでSign Onします。
 - ・ プルダウンメニューから[View]、[Consistency Check Status]と選択します。選択できれば、一貫性チェックが起動されています。
 - ・ 全てのロジカルドライブの[Cancel]のチェックボックスをチェックします。
 - ・ [Cancel]をクリックします。
 - ・ 本当にキャンセルするかを聞いてきますので、[はい]をクリックします。

3. スケジュールの設定(変更)手順

1) スケジュールの設定(変更)

[Start_CC]をcronにより定期的に行うように設定します。以下の方法で適切な時間に一貫性チェックが実行できるように設定変更を行なってください。

なお、一貫性チェックは、1週間に1回以上の頻度で実行することをお勧めします。

- a) 管理者権限でLinuxにログインします。
- b) 以下のコマンドを入力します。

```
# crontab -e
```

コマンドを起動するとエディタが開きますので、以下の様な内容を入力し、保存終了してください。以下の場合、毎週日曜日の午前0時に一貫性チェックが実行されます。

```
0 0 * * 0 /usr/bin/Start_CC
```

※ crontab の詳細については、オンラインマニュアルを参照してください。

- c) 以下のコマンドを入力し、crond デーモンを再起動します。
/etc/rc.d/init.d/crond restart

2) 動作確認

- a) 管理者権限でLinuxにログインします。
- b) 以下のコマンドを入力し、cron ログを表示します。
less /var/log/cron

以下の様に、設定された時間に[Start_CC]が起動されていることを確認します。

```
Nov 30 15:00:00 TX150S2 CROND[16148]: (root) CMD (/usr/bin/Start_CC)
```

4. アンインストール手順

- a) 管理者権限でLinuxにログインします。
- b) 以下のコマンドを入力し、一貫性チェックに関する設定を削除します。

```
# crontab -e
```

コマンドを起動するとエディタが開きますので、本ツールのインストール時設定した行（以下の様な/usr/bin/Start_CCに関する行）を削除し、保存終了します。

```
0 0 * * 0 /usr/bin/Start_CC
```

- c) 以下のコマンドを入力し、crond デーモンを再起動します。

```
# /etc/rc.d/init.d/crond restart
```

以上